

## 音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名 項目	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> <span style="font-size: 2em;">○○○○</span> </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「表現の仕方を調べてみよう」では器楽表現や鑑賞を通じて学習した楽器の音の出る仕組みや旋律の特徴に着目し、「話し合おう」を活用して学びを深める工夫がされている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>○「Let's Play!」や「Let's Try!」で合奏の難易度を示すなど、生徒が主体的・協働的に学習が進められるよう工夫されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○基礎から始め「深めてみよう」まで、段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材が用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽を通じて、人と人とのつながりを生み出す取組を紹介し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。</p>	
資 料	<p>○楽器の名手からのメッセージにより、生徒が音楽的な見方や考え方を働かせるためのヒントが得られるよう工夫されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」）が、掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、模範演奏を視聴できるなど様々な資料に触れられるよう工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○各楽器の掲載する順序をカテゴリーごとに配置されていることで、楽器の表現の仕方について、特徴を踏まえて共通点や相違点を考えられるよう工夫されている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学生の器楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 芸</div>
内 容	<p> <b>&lt;知識及び技能が習得されるようにするための工夫&gt;</b>            ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図で記されると共に、楽器の構え方については複数の角度から掲載され、奏法など分かりやすく説明がされている。         </p> <p> <b>&lt;思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫&gt;</b>            ○「学びのコンパス」では、活動のヒントがイラストの吹き出しによって示されているほか、思考した内容を記述する場面が設定されており、実際に演奏して確かめることが出来るように工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫&gt;</b>            ○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、様々な楽器で多様な音楽表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。         </p> <p>           ○器楽の学習内容を俯瞰することのできるページを設けることで、主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。         </p> <p> <b>&lt;音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫&gt;</b>            ○教材には学習目標や学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。         </p> <p>           ○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から練習できるように工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。         </p> <p> <b>&lt;生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫&gt;</b>            ○各界の著名人からのメッセージや同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考えられるよう工夫されている。         </p>	
資 料	<p>○クラシック音楽に留まらず、バンドのスコアなど様々なジャンルの楽譜が掲載されている。</p> <p>○器楽の学習をサポートするための資料（「ギター/キーボードコード表」「楽器の図鑑」）が掲載されている。</p> <p>○QRコードを読み取ることによって、音源や資料を活用でき、個別最適な学びをサポートできるように工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントの使用と色覚特性への配慮がされている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説が示されており、掲載曲に書かれている記号が学習できるよう工夫されている。</p>	
総 括	<p>○学習指導要領に示された三つの資質・能力に対応する学習内容や教材を見開きで示し、学習が見通せる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

音楽科（器楽合奏） 調査資料 2

○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	107	107
2 QRコードの数 ※ 目次と裏表紙も含む	24	42

○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	15	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	12	24
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	6	17
4 扱っている和楽器の数	13	26
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	71	89
6 二重奏以上の合奏教材の数	29	26

○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。</li> <li>○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。</li> <li>○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。</li> <li>○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。</li> <li>○我が国の音楽文化に関わる演奏家や、伝統音楽の担い手、後継者について紹介されている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の五つを扱っている。</li> <li>○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。</li> <li>○「日本の伝統音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。</li> <li>○「MyMelody」として、箏を用いた創作が掲載されている。</li> <li>○巻末の資料では、同世代の中学生による和楽器の演奏写真が掲載されている。</li> </ul>